



Collaboration City 21

社団法人 三原青年会議所新聞



2001年 6月20日

発行(社)三原青年会議所
編集/広報委員会
三原市皆実4丁目8番1号
(三原商工会議所内)
TEL(0848)63-3515
FAX(0848)62-1141
インターネットアドレス
<http://www.tako.ne.jp/~mjc/>
Eメールアドレスmjc@tako.ne.jp

2001年三原JCスローガン

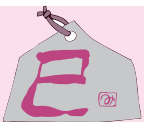
言 行 一 致

今、JCメンバーとして...

今月号の記事

- 1面 めざせコミュニティスクール!
- 2面 こんなに違うよね!! 三原市と広島市のボラセン
- 3面 広域まちづくり研究会/エコショップ/今、市民活動が輝くとき
- 4面 わんぱく相撲三原場所/やっさ祭り

みたか
きいたか



テレビのニュースを正視することができず、言いようのない怒りと悲しみだけが胸の中を駆けめぐっていた。大阪・池田市の児童殺傷事件、無口の男が教室に乱入し、8人もの幼く、尊い命が奪われてしまった。冷酷無比、残念としか言いようがない。2年前に京都市日野小で起きた俊希君殺害事件は社会に警鐘を鳴らしたのではなかったのか。一方、今、各地で「地域に開かれた学校」を合言葉に学校と地域がパートナーシップを結んで子どもの将来を共に考える取り組みが盛んに行われている。ところが、教育関係者の中には、学校の安全性の確保から、門扉の開放、施設の一般者の利用について根深い抵抗があるとも聞く。確かに不審者や部外者が我が物顔で自由に学校に出入りできる事によるリスクは小さくないし、ある意味では往来が通じる事によって学校はまちの現実がいやが上でも直面することになる。しかし「開かれた」ということは、子どもたちへの教育に関する情報・方針といったソフト面の充実をはかり、もっと地域にオープンにしていこうという試みであり、校門を開放したり、外壁を壊したりするなどといったハード面で学校の安全対策をどうするかという議論とは性質が全く違う。地域の人々が学校を支え、子どもたちの地域の人たちとの間で人間関係を築いていく中で、こういった危機管理にも対応できないものだろうか考える。子どもたちの明るい未来のために、学校が門を閉ざし外部と隔絶することだけは避けなければならない。



教育長もかけつけた

めざせ コミュニティスクール!

~ Community School ~

第17回わんぱく相撲三原場所

わんぱく相撲は(社)東京青年会議所の商標です。

悔し涙を流して泣いた子もいました。思わずガッツポーズを出して笑った子もいました。土俵に頭を打ったり、勢いあまって転げ落ちる子もいました。取り組み前に「お願いします!」と叫んでシコにはいるチビッコ達は、一日中輝いていました。

5月27日(日)、さつき祭りで賑わう宮浦公園多目的グラウンドにて、(社)三原青年会議所 教育青少年委員会(鳥越浩委員長)は、第17回わんぱく相撲三原場所を開催しました。今年も三原近郊の小学生に加え、久井町・瀬戸田町・本郷町・御調町・河内町・因島市などからの参加者があり、大人顔負けの熱戦が繰り広げられました。

私たちが(社)三原青年会議所は、裸と裸のぶつかり合う「相撲」を通して、「勝つことの喜び」、「負けることの悔しさ」や「相手を思いやる心の大切さ」、「挨拶を重んじることの大切さ」といったことを感じていただく中で、子どもたちの健全育成を願って事業を継続しております。

次世代の子どもたちに...

私たちの住んでいるまちで、子どもたちが集団になって遊んでいる姿を見る機会が、めっきり少なくなっているような気がします。遊び方が変わったこと、少子化の問題もあると思いますが、私たち大人が地域コミュニティを避けて生活する事を好み、その結果、地域での指導者の立場の大人たちが居なくなってきていることもひとつの原因ではないかと思えます。また家庭では、「子どもの思うように...」とか「子どもの自由に...」という放任第一主義で、「しつけ」を放棄した親の言い訳が当たりまえのような社会になってきています。

子どもたちは昔も今も、自分の環境の中にあるもの全てを受け入れて育っていくものです。「わんぱく相撲」を通して、競い合い、励まし合い、涙したり笑ったりする中で、汗と涙の裏側に隠れた子どもたちの感性に気づいてやり、その感性を伸ばしてやるのが私たち大人の努めであるような気がします。そうすることによって、地域の

教育力は高まり、明日の「みはらっ子」が育っていくのではないのでしょうか。

学校教育の変化の中で...!

学校では、2002年度から小中学校で実施される「新学習指導要項」のもと、『ゆとり』の中で『特色ある教育』を展開し、「自ら学び考える『生きる力』」を育成する。」という方針です。そしてその具体的な対策として「総合的な学習の時間」の導入や、完全週5日制に切り替えることを掲げています。このことは、地域や学校ごとの実情を無視した「一律の教育」が、限界に来ていることを意味し、地域に教育を求めているようにも感じ取られます。そのためには、学校が親や地域と『共にある存在』にならなければなりません。コミュニティが学校をつくり、学校がコミュニティをつくるという視点が必要な時代となるのです。もっと学校と親と地域が連携し、地域の祭や行事に積極的に参加することが今、求められているのです。

コミュニティスクールの確立!

今年のわんぱく相撲は、各地域(久井町・瀬戸田町・本郷町・三原町・御調町)の各教育委員会の後援を頂き、各小学校に案内申込用紙を配布させて頂きました。読者の皆様のご家庭には学校から子どもたちがチラシを持って帰ったでしょうか。わんぱく相撲のことを家庭で子どもたちと話していただけたでしょうか。ひと昔前の町内会対抗でのソフトボール大会や相撲大会のように、子どもより親や地域の大人たちが一生懸命になり競い合う中で、地域のコミュニティが育み、まちの中で子どもたちが育てられた現状を私たちはただのなつかしい思い出としてしまっているのでしょうか。「悪い事をして近所のおじさんに叱られた」というような昔の地域コミュニティは一体どこに行ってしまったのでしょうか。

21世紀という時代にふさわしい新たな形での「教育」は、学校・家庭・地域が共に協力、連携し合うことが求められています。未来の子どもたちにとって、共に育てるという『共育』が必要なのです。

本紙『やっさもっさ』は、1月から11月まで毎月1回発行し、新聞折り込みを中心に配布しております。何卒ご愛読ください。
やっさもっさは資源保護のため再生紙を利用しています。